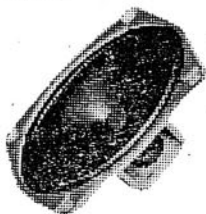


国内新製品紹介

日本音響電気のミラフォン "RO-15-D" 楕円形 SP

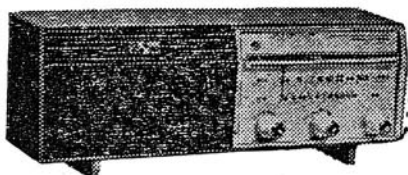
4"×6" の楕円型スピーカーで、特殊設計のコーン紙のカーブにより、縦位置、横位置のどちらで使用しても指向性はほとんど変わらない。入力3W、入力インピーダンス4Ωと8Ω、レスポンス特性は80~12,000 c/sである。
(東京都中央区銀座西6の1)



日本音響電気 K. K.

オンキョーのステレオ用 ラジオ "OS-175L (OS-175R)"

写真では一つのセットしかないが、これは特に小型ラジオでもステレオを……というわけで、もう一つ右側用として、これと対称的なデザインを施されたセット(OS-175R)がある。もちろん1台ずつでも売っているもので、内容は左右とも全く同じの5球2バンド・ラジオで、1台についていえば使用真空管は12BE6, 12BA6, 12AV6, 30A5, 35W4の配列で、出力は最大1.5W、消費電力24V、スピーカーは10cm型、外形寸法は横360×高さ136×奥行130(mm)、重量は2.2kgである。現金正価は¥5,900。



(大阪市旭区大宮西之町5の32)

大阪音響 K. K.

PT型パワー・トランス

製番	規		格				重量 (kg)	小売価格
PT-65	250V	65mA	5V~6.3V 0.7A	6.3V 2.5A			1.4	690
PT-70	280V×2, 250V×2	70mA	5V~6.3V 2A	6.3V 3A			1.5	830
PT-80	280V×2, 250V×2	80mA	5V~6.3V 2A	6.3V 2A	6.3V (CT) 2A		1.8	1,170
PT-100	280V×1, 250V×2	100mA	5V~6.3V 2A	6.3V 1.5A	6.3V (CT) 2A		2.3	1,320
PT-120	280V×2, 250V×2	120mA	5V~6.3V 2A	6.3V 2A	6.3V (CT) 3A		2.5	1,440

ステレオ用パワー・トランス

製番	規		格				重量 (kg)	小売価格
P-11	250V×2	144mA	6.3V 1A	5.5V 0.3A	5.5V 0.7A	6.3V 4.2A	2.5	1,450
P-20	210V×2	210mA	5V 1.9A	5.5V 0.7A	5.5V 0.7A	6.3V 3A 3.2A	3.4	1,870
P-30	275V×2, 145V×2	180mA 90mA	38V 0.15A	5V 2A	6.3V 1A	6.3V 2.9A 2.9A 4A	4.4	3,430

(東京都杉並区泉町460番地 電話(328)代表0111番~10)

三電機のハム移動用送信機 "QT-3"

ハム移動局として特に自転車に取付ける目的で設計されたもので、小型、軽量でかつ堅牢な3.5Mc, 7Mc用電話送信機である。出力は10W (A₃)、発振は水晶制御、使用真空管は12AU7と6AQ5×2、電源はDC 300V (6.3Vまたは12Vから)、外形寸法は188×118×110(mm)で、重量は2.2kgである。正価は¥8,600。

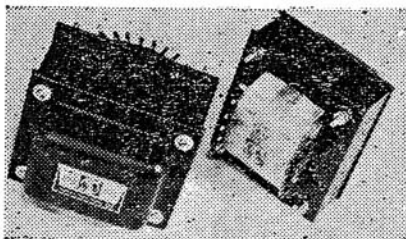


(東京都大田区久ヶ原町197)

三電機 K. K.

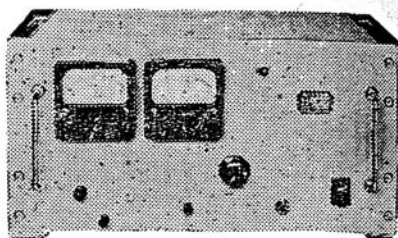
山水のパワー・トランス

トランスを本命とする山水電気では、下表に示すような、普及型パワー・トランス"PTシリーズ"5種類と、ステレオ用3種類を発売した。従来のもより約30%小型となり、しかも効率、レギュレーションともに高いことを誇っている。



東立通信工業のTR式 直流安定電源 "MT-422"

本器はトランジスター、ゼナー・ダイオード等の新しい部品を用いた直流安定化電源である。出力電圧はDC 1~36Vが連続可変で、かつ低内部抵抗および電源電圧変動に対しても安定である。本器は磁気増幅型定電圧装置により交流電源変動を安定し、整流後トランジスターにより検出、制御を行っており、特に過電流ないし短絡に対しては充分速応する保護回路がつけられている。主な規格は、出力電流DC 12~0(A)、出力電圧変動、上記の入力電圧(単相交流90~105V, 50~60 c/s)や出力電流の全変動に対して0.1V以下、脈動率5mV以下(RMS)、内部抵抗0.01Ω以下、なお、パネルはBTS標準ラックに組込可能である。



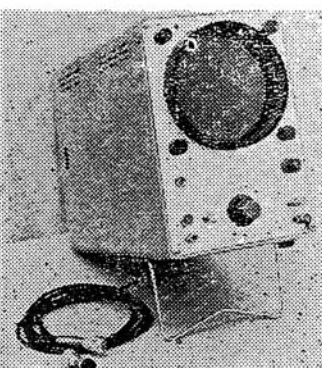
(東京都品川区西大崎2~170)

東立通信工業 K. K.

菊水の測定器2種

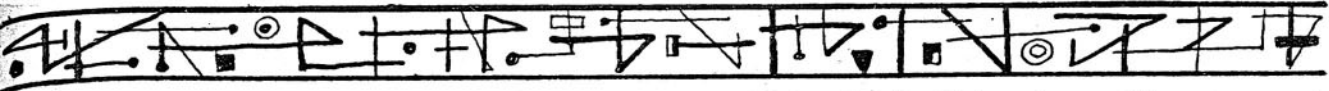
●オッシロスコープ "552A"

本機はスイープジェネレーターと組合わせて機器の特性を直視するオッシロスコープで、垂直軸に高感度の直流増幅器を配し、サグによる測定誤差がない。133mmのブラウン管を使用しているが、小型、軽量で消費電力も少なく、独自の傾斜台を備えている。使用真空管は6AQ8(6DT8), 12AX7×2, 6X4, 1X2-B, 5U1-F, NE-68垂直軸についていえば、入力インピーダンス: 1MΩ (約55pF最大)、入力分圧器 1/10および1/10、周波数特性 (-3dB): ACのとき1.7 c/s~50 kc, DCのとき0~50 kc, 偏向



感度15 mV/cm以上。水平軸については、入力インピーダンスは垂直と同じ、周波数特性 (-3 dB): 2.7 c/s~30 kc, 偏向

感度0.35V/cm以上。較正電圧は(0~5V)×0.1および×0.01 ±DC (半固定、外部より調整、測定ができる)。外形寸法は幅180×高272

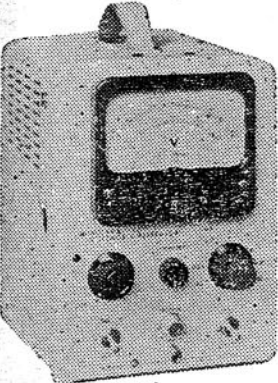


×奥行 400 (mm) で、重量は約 9.2 kg である。¥53,000。

●較正用矩形波発生器 “494”

実効直型、平均直型、波高直型および波高直間電圧指示型バルボルまたはオシロの電圧目盛の較正用に使用するもので、P-P 値直読の電圧計と分圧器により 100 V 以下の任意の電圧を取出すことができ、出力波形は 60 c/s, 1000 c/s および直流に切換えることができる。使用真空管は 6U8×2, 6BQ7-A, 6DE7, 6X4, 6AL5, 85A2 (RD-35)、指示計の目盛長 88 mm で 200 μA。

方形波 (矩形波) 出力は 0.1~0.2 / 0.5 / 1 / 2 / 5 / 10 / 20 / 50 / 100 mV (p-p) および



0.1 .. 1000 V (p-p) の 18 レンジである電圧精度は ±3%、出力インピーダンスはレンジにより約 0~2.0 kΩ。直流出力は上と同じく 18 レンジで電圧精度も ±3% である。

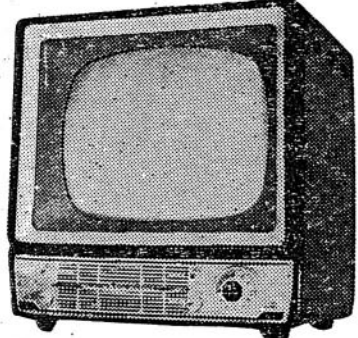
外形寸法は幅 170×高さ 230×奥行 250 (mm) で、重量は約 4.8 kg である。定価は ¥42,500。(東京都大田区馬込西 4 の 67

Tel. 771-9191~5)

菊水電波 K. K.

東映の 17 型 TV キット “17 TV-600-HM”

完全トランス方式で、真空管は RF に高性能 HH 管を、IF には 6DK6 を、垂直偏向出力には 6CZ5 を採用し、ブラウン管も 110° 偏向メタルバックの 17BZP を使用している。その他スポット・カラー回路、隣接チャンネル、トラップ、トーン・コントロールつきである。またリモコンも取付可能となっている。その他スピーカーは 12×18 cm の広角箱型、チューナーはセルフ・クリーナー付ターレット方式、スイッチはワン・タッチ・システムというデラックス・セットである。正価は ¥43,000、



(東京都千代田区神田旅籠町 3~7)

東映無線 K. K.

東芝のテープ・レコーダー “GT-52D”

1 台で 2 役の働きをする 2 重録音ができる。

つまり上側または下側トラックに録音されたものを再生しながら他の側に録音することができるから、語学、音楽などの練習に便利である。上側、下側トラックに録音されたものを同時に再生できるから、テープの上下両側トラックが 2 チャンネルになり、ステレオ・プレー・ジャックにラジオを接続すれば完全なステレオ・テープ再生器になる。また上側、下側別々に再生することもできる。小型であるが 7 号リールもかかるから、往復最高 2 時間の録音ができる。

使用真空管は 6AU6 (Hi-Fi), 6AU6, 12AX7, 6AR5, 6X4 の 5 本で、周波数特性は速度 9.5 cm/s で 100~5,000 c/s, 速度 19cm/s で 100~9,000 c/s である。使用スピーカーは 10×15 (cm) 箱型。出力 1 W である。外形寸法は 345×175×300 (mm)、重量 10 kg である。定価は ¥35,000。

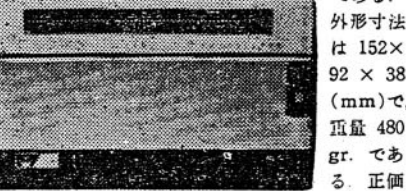


(東京都千代田区有楽町 朝日新聞新館 Tel. 201-5651, 5661)

東京芝浦電気 K. K.

クラウンの 7 石ラジオ “TR-702”

7 石 2 バンドのポータブルであるが、電源には単三×2 (3V) ですむ低電圧に設計されているから経済的である。またテレビ用に作られた 2SA131 という石を使って、低電圧ながら音質、感度ともに良好である。受信周波数は 535~1605 kc と 3.82~12 Mc。出力は無歪 170 mW (歪率 10% 以下) である。使用トランジスターは 2SA131, 2SA151×2, 2SB153, 2SB155, 2SB156×2。スピーカーは 2¹/₂



である。外形寸法は 152×92×38 (mm) で、重量 480 gr. である。正価は ¥9,500。

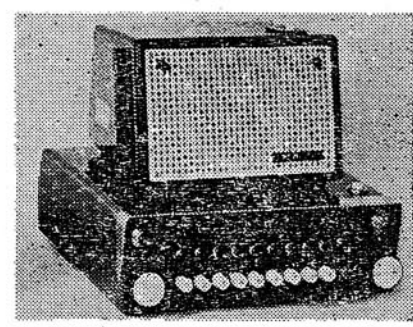
(東京都千代田区神田末広町 38)

クラウン K. K.

ダイヤのインターホン

伊丹通信機 K. K. では写真でごらんのような小型ながら完全同時通話方式のインターホンを発売した。電話と同じく双方が同時に話し合えるし、手に持っている必要もないので、記憶計算などしながら利用できる。同社からはこの方式で、相互型、多局型ともに出しているが、写真のものは 5 局用の親器である。この親器の

値段は ¥28,000 で、子機は 1 台 6,900 である。なお 10 局用親機は ¥32,600。16 局用 ¥3,600。21 局用 43,800。相互型では 5 局用 1 台が ¥23,000。10 局用が ¥25,300 である。



(大阪市東区唐物町 2 の 12 Tel. 26-1239)

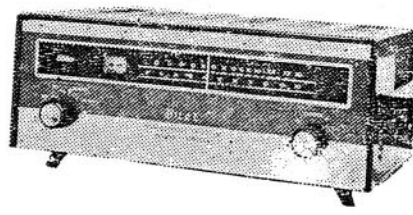
伊丹通信機 K. K.

トリオの新製品 2 種

○チューナー “デュエット” FM-105

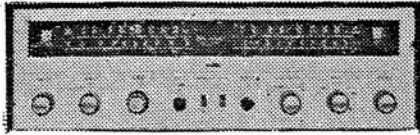
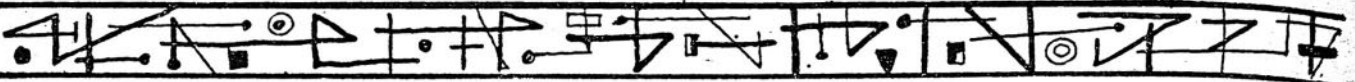
本機はノイズ・リミッターが 2 段ついているため、蛍光雑音や自動車の点火雑音はもちろん雷鳴時でも明澄な受信を行うことができる。3 連バリコンの高周波つきであるから、感度と分離力は高く遠距離用として好適である。周波数は 80~108 Mc で FM もテレビ音声も受信できる。長くアメリカ向けに輸出されていたものの国内版というところ。

主な規格は、感度: 1.5 μV (S/N 20 dB に要する入力)、選択度: ベンド巾 200 kc (-6 dB)、歪: 100% 変調で 1% 以下、イメージ比: 40 dB 以上、周波数特性 20~20,000 c/s (±0.5 dB)、出力端子は FM およびマルチプレックス出力、アンテナ端子 300 Ω、消費電力は 32 W。使用真空管は 6AQ8 (RF, 混合), 6AQ8 (AFC および局発), 6BA6×2 (IF), 6AU6×2 (リミッター), 6AL5 (検波), 6X4 (整流) である。外形寸法は幅 280×高さ 125×奥行 200 (mm)、重量は 4.6 kg。



●FM/AM-AM ステレオ・トライアンブ “W-35”

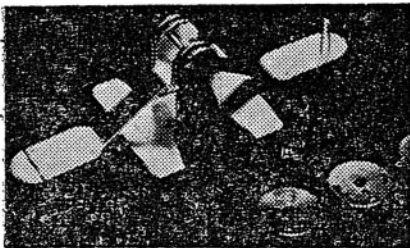
535~1605 kc が 2 チャンネルに 80~108 Mc - FM バンドを組合わせたもので、終段は 6BM8 pp が 2 組だから 10W×2 の出力がある。使用真空管は 6BE6×2, 6BA6×3, 6AQ8×3, 12AX7×2, 6AL5, 6BM8×4, 5AR4, 0A79 の計 16 球+1 石である。ステレオ・レコードを聞く場合のピックアップはクリスタル、マグネチックとも使用できる。トーン・コントロールは 50 c/s +12dB -17 dB, 10 kc +17 dB, -14 dB ラウドネスコントロールはボリューム・コントロール -30 dB にて 50 c/s +12 dB, 10 kc +11 dB, イコライザーは RIAA である。消費電力は 130 VA。外形寸法は横 436×高さ 132×奥行 300 (mm)、重量は 12.8 kg 正価は ¥33,500。



(東京都大田区調布千鳥町 74)
Tel. 751-7121~6
トリオ商事 K. K.

グレースの針圧計 "Model D"

ステレオ・レコードの発展にもなつて PU の針圧が大きな意味をもつようになってきた。そこで、簡単でしかも正確な測定をするために売出したのがこの針圧計で、穴アキ硬貨のようなウエイト・ディスクを用いてはかるバランス型のものである。針圧計をターンテーブルのせ PU の針先を実際の演奏状態と同じ位置で一方の腕にのせ他方にウエイト・ディスクをのせるのであるが、5 円の穴アキ硬貨を用いて測定範囲を拡張することもできる。附属のウエイト・ディスクは、0.5 gr. 1 個、1 gr. 2 個、2 gr. 4 個で、これによる測定範囲は 0.5 gr ごとで 0.5~10.5 gr. である。定価は ¥ 300.



(東京都品川区大井元芝町 870)
Tel. 761-7744
品川無線 K. K.

アイワの新製品 2 種

●リボン・マイク "VM-18"



VM-18 型は一つのリボンに音波の速度成分と圧力成分が適当に加わって単一指向性となるように設計され、特に指向性感度をよくするためにリボンにつながる音響回路の定数および形状に苦心が払われている。小型棒状で使い易く、小型ながら感度が非常に高い。インピーダンスは $600 \Omega \pm 20\%$ (1000 c/s), 感度 -75 dB ($0 \text{ dB} = 1 \text{ V}/\mu \text{ bar}$ 1,000 c/s), 雑音レベル 30 dB 以下、低域減衰用チョーク・スイッチ付、大きさは直径 38 mm, 長さ 245 mm で、重量は 1.0 kg (コード 3 m コンセント共) 定価 ¥ 49,000.

●ステレオ用クリスタル・カートリッジ "CX-420"

これはベンディング・タイプのバイモルフを使用した高性能カートリッジである。ターンオーバーのクリスタル型、針先および針圧はステレオ・LP 用が 0.017 mm 6~8 gr. 78 回転用は 0.063 mm, 7~10 gr. 電気的インピーダン

ス約 650 pF (但し一方エレメント当り), 感度・負荷抵抗は -5 dB ($0 \text{ dB} = 1 \text{ V}/\text{cm}$ 1,000 c/s), チャンネル・アイソレーション 20 dB である。



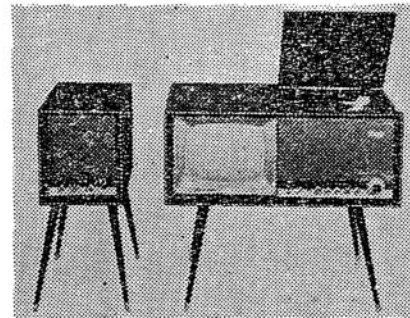
(東京都千代田区神田元佐久間町 4)
Tel. 831-9201~5
アイワ K. K.

ナショナルの新製品 4 種

●ステレオ・テレビ "F14-U1"

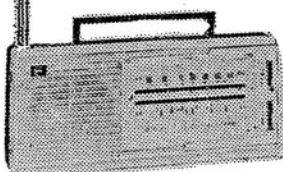
ステレオ・プレーヤー、アンプと組合わさったもので、専用のステレオ・アンプ SA-1 (写真の左) と併用してステレオ・レコードを楽しむことができる。なお本機には AM-FM チューナーおよびテーブ・レコーダーを接続することもできる。テレビ部はゴールデン・ゲート管 7DJ8 を RF 増幅に使った普通の 14 型受像機であるが、音声検波のあとが 12AT7 (ステレオ) → 6A8-16A8 のアンプとなり、スピーカーは中・低音用として $20 \times 12 \text{ cm}$ 楕円型、高音用として 6.0 cm 丸型が使われている。出力は無歪 2.0 W。プレーヤーは 4 スピードのフォノモーターに 20 cm (0.6 kg) のターンテーブル、セラミック型ターンオーバー方式のステレオ PU がついている。周波数特性は LP (ST) が $40 \sim 12,000 \text{ c/s}$, SP が $40 \sim 10,000 \text{ c/s}$ となっている。この 2 つが組合わさったコンソールの外形寸法は高さ $375 \times$ 幅 $860 \times$ 奥行 460 (mm) , 重量は 30 kg.

ステレオ・アンプ SA-1 の方は 6AV6-6BM8-6X4 の 3 球式で、無歪出力 2.0 W で、スピーカーは前と同じである。外形寸法は高さ $375 \times$ 幅 $300 \times$ 奥行 460 (mm) で、重量は 7.5 kg である。定価は F14-U8 が ¥ 94,800 で、SA-1 が ¥ 12,000.



●8石 2 バンド・ラジオ "T-70"

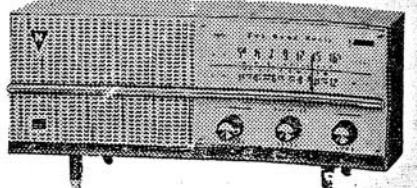
3 レスとうたっているが、これはコードレス、ノイズレス、タイムレスということである。内容は 2SA102 \times 2→2SA55 \times 2→2SB171 \times 2→2SB176 \times 2 に OA70, MA23 で、540~1600 kc と 3.9~10Mc の 2 バンド・ラジオである。電気的出力は無歪 (10%) で



150mW, 最大 200mW。スピーカーは 10 cm 型、電源は単二 \times 4 の 6V。外形寸法は幅 $297 \times$ 高さ $148.5 \times$ 奥行 715 (mm) , 重量 1.4 kg である。正価は ¥ 11,800.

●5球 2 バンド・ラジオ "DX-480"

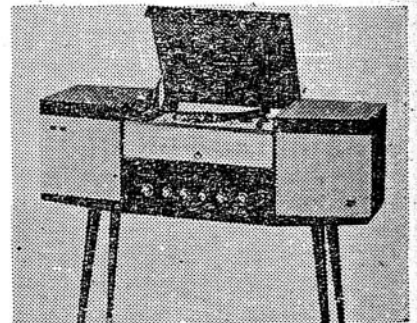
12BE6-12BA6-12AV6-30A5-35W4 のホーム・ラジオである。受信周波数は $535 \sim 1605 \text{ kc}$, $3.75 \sim 12 \text{ Mc}$. 電気的出力は無歪 1.2 W, 最大 1.5 W。スピーカーは 10 cm 型。消費電力は 23 VA。外形は幅 $334 \times$ 高さ $153 \times$ 奥行 144 (mm) で、重量 1.17 kg. 正価 ¥ 5,950.



●ステレオ・アンサンブル "HE-30"

12BE3-12BA6-12AV6-30A5 が 2 組に、整流管は 35W4 と 19A3 の 2 本という内容で、出力は最大 $2 \text{ W} \times 2$, 無歪 $1.5 \text{ W} \times 2$ である。いずれも $535 \sim 1605 \text{ kc}$ と $3.8 \sim 12 \text{ Mc}$ の 2 バンドとなっている。スピーカーは 18 cm 型 2 本を使っている。

プレーヤー部は 4 スピードで 17 cm のターンテーブル、クリスタル式ターンオーバー・クリスタル PU がついている。その針圧は ST, LP, 78 と 8 gr. 再生周波数は $40 \sim 12,000 \text{ c/s}$ となっている。この部分の寸法は幅 $35 \times$ 高さ $135 \times$ 奥行 214 (mm) で、重量 2.2 kg である。全体としての外形寸法は幅 $920 \times$ 高さ 760 奥行 310 (mm) で、重量 15.6 kg である。現金正価は ¥ 35,800.



(大阪府北河内郡門真町 Tel. 99-1151)
松下電器産業・ラジオ事業部

サンヨーのステレオ・プレーヤー "STP-107"

ラジオを 2 台使えばステレオ・レコードを楽しむことができる。モーターは 4 スピードのインダクション型で、マグネチック・コントロールによる速度微調つきである。ターンテーブルは 17 cm ゴム・シートつき、PU はクリスタル型ターンオーバーの CP-8R 型、再生周波数範囲は $40 \sim 12,000 \text{ c/s}$. 外形寸法は幅 $340 \times$ 高さ $125 \times$ 奥行 240 (mm) で、重量は 2.9 kg である。現金正価は ¥ 6,200 (プラスチック・カバーつき).

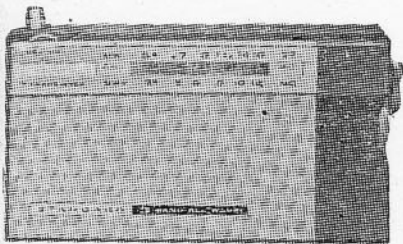


(大阪府守口市京阪本通 Tel. 99-1181)
三洋電機 K. K.

スタンダードの7石 3バンド・ラジオ

“オール・バンダー” SR-G109

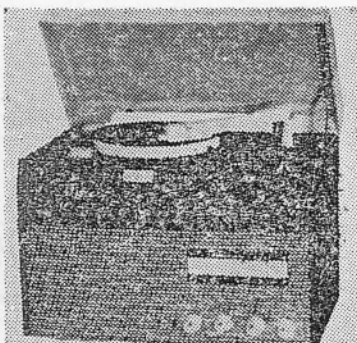
540~1,600 kc の中波帯と普通の短波帯 3.9~12 Mc のほか、その中間で漁業無線などに広く用いられている 1.6~3.9 Mc もカバーするという3バンドである。アンテナは 140 mm フェライトコア、730 mm 12 段伸縮ロッド・アンテナとなっている。最大出力は 200 mW、スピーカーは 6.5 cm、電源は単三×4 の 6V、外形寸法は横 176×高さ 92×厚さ 46 (mm) で、重量は 650 gr. 定価は ¥10,900.



(東京都渋谷区向山町 53 Tel. 713-2171)
スタンダード無線工業 K. K.

日立のステレオ電蓄 “PS-558”

これは4スピードのステレオ・プレーヤー “DPO-558” と2バンド・ラジオ “S-558” を上下に組合せたもの。DPO-558 は4スピード・インダクションモーター (マグネチックレギュレーターつき)、17 cm ゴムカバリングつきのターンテーブル、PU はターナーオーバー式クリスタル型、外形寸法は幅 385×高さ 130×奥行 240 (mm) で、重量は 2.5 kg. S-558 は 12BE6-12BA6-12AV6-30A5-35W4 の5球スーパーで 535~1,605 kc と 3.8~12 Mc の2バンドとなっている。スピーカーは 18×12

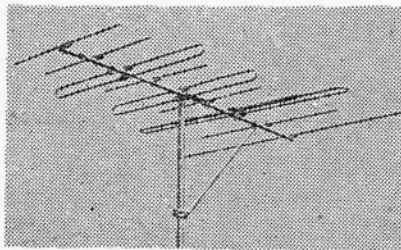


cm の楕円型を使っている。出力は 1W. 外形寸法は幅 385×高さ 180×奥行 240 (mm)、重量は約 3 kg. 現金正価は S-558 が ¥7,800, DPO-558 が ¥6,200 で組合わせて ¥14,000.

(東京都千代田区丸の内 新丸ビル内)
日立製作所 K. K.

DX のデュアキシャル・アンテナ

DX アンテナの関西テレビ工業では、9月1日からのカラー TV 本放送にそなえて、広帯域で感度の高いデュアキシャル (DC) ノイズレス・アンテナ4種を発売することとなった。デュアキシャルというのは、同軸複合ラジエーターを使っているからで、これによりテレビの 6 Mc の帯域内が均一で高感度の利得を得ることができる。主な規格は下表のとおりである。

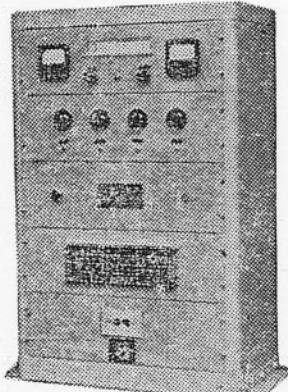


(神戸市兵庫区入江通 6 の 1)
関西テレビ工業 K. K.

型式	素子数	チャンネル	使用地域	利得		定在波比	小売正価
				シング	スタック		
5G112	5	全帯域	中距離用	4.5~8	5.5~10	2.3 以下	1,050
7G112	7	全帯域	遠距離用	6~9.5	7.5~11	2.5 以下	1,700
9G112	9	全帯域	超遠距離用	7~10	8~12	2.7 以下	2,590
11G112	11	全帯域	超遠距離用	7.5~11	8.5~13	2.7 以下	3,500

マジマの拡声装置

本アンプはラック型のケースにパネル、シャシー、裏板を三個所でそれぞれ別個にビス止めたチューナーつきアンプで、リアアンプはマイク2個、ラジオ、チャイム、レコードまたはテープレコーダーを同時または単独にミキサーできるものである。チューナーは2球 (6BE6, 6BA6) にダイオード1個の回路で、リアアンプは 6AU6×3, 12AU7 を使っている。メインアンプは真空管の寿命を考え 6AR5 による三極接続で2段増幅し、保守サービスの点から同じ 6AR5 による 6CA7 の AB ブッシュルの終段をドライブしている。出力負荷は 100 Ω とし、16 Ω のトランペット・ホーンを6本使用した場合は 96 Ω、普通の 6.5' のパーマネント・スピーカー 50 本



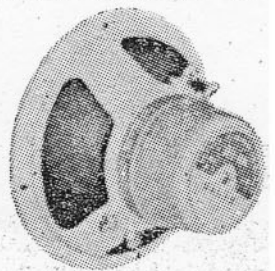
を各室に配置した場合ちょうどマッチングする。なお他に 60 Ω, 80 Ω, 120 Ω の端子が出力トランスに設けてある。写真およびこの説明は AM-60 という 60 W 型のものであるが、この他に AM-120 (120 W), AM-180 (180 W) もある。定価は AM-60 が ¥124,600, AM-120 が ¥235,400, AM-180 が ¥342,000.

(東京都杉並区久我山 2 の 561)
マジマ K. K.

オンキョーの M.F.B. 20 cm スピーカー “MX-8P”

Hi-Fi アンプに NFB (負帰還) はつきものであるが、最近では MFB (モーショナル・フィードバック) というのが研究されている。NFB が出力トランスの2次側からの出力の一部

をとり出し、これを前段に還するのに対し、MFB はスピーカーのコーン紙の振動を電氣的にとり出して饋還するものである。すなわちスピーカーのボイスコイルの他に MF

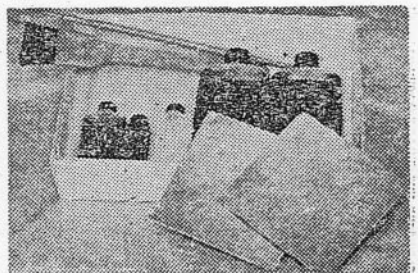


B コイルを取付け、これを独立した磁気回路に挿入して、コーン紙の振動速度に比例した電圧が発生するようにしてある。この電圧をセットに饋還するというものである。このほど大阪音響では、この MFB スピーカーを大衆的なものとして普及する目的で、20cm 型の速度型 MFB スピーカー MX-8P を売り出した。写真の上側に出ているのが MFB コイル端子である。VC インピーダンスは 8Ω、最大許容入力 8W で周波数範囲は 40~13000c/s. 定価は ¥3,380.

(大阪市旭区大宮西之町 5 の 32)
大阪音響 K. K.

銘光工業のプリント 配線キット

プリント基板メーカーの同社では、小学生でも手軽にできるアマチュアの自作用プリント配線基板の完全キットを売出した。自分で設計したプリント配線がわずか1時間で出来上るといふもので、キットの内容は、基板 80×80mm. 2枚、エッチング・ベッド、腐蝕液、MK ラック、アルコール、MKフラックス、脱脂脱錆剤、刷毛、筆等、材料用具一式をそろえたもので、定価は ¥350 (〒50).



(東京都世田谷区祖師谷 2 の 686)
銘光工業 K. K.